

禪が伝えたお茶の話



画：正親里紗

第2回 栄西禅師以前のお茶について

館 隆 志

日本におけるお茶といえば、日本禅宗の祖として尊崇されてきた栄西禅師を思い浮かべる人が多いのではないだろうか？ かくいう私も、栄西禅師こそが日本に茶を請来した人として教えを受けてきた一人です。しかし、実際にはそれよりもっと古い時代にお茶は日本に伝来し、そして飲まれていたのです。

喫茶文化の最初の伝来は明確ではありませんが、文献上の初出は、『日本後紀』弘仁六年（八一五）四月二十二日条に見える、「近畿のくに江国滋賀韓琦（からさき大津市唐崎）」に行幸した嵯峨天皇が梵釈寺（ほんしやくじに立ち寄った際に、「大僧都だいそうず永忠」が自ら煎じた茶を献じたという記事であり、日本における受容と展開は当初より仏教を介して行われました。

奈良から平安時代初期にかけて活躍した永忠という僧侶は、宝亀年間（七七〇～七八〇）に遣唐使として入唐し、三十年もの間、長安の西明寺などに留学していた僧侶です。ま

た、留学中の最澄の世話にも携わっていたらしく、延暦二十四年（八〇五）に最澄とともに帰国しています。ちなみに、空海は長安・西明寺にいた時、永忠の使つていた部屋を引き継ぎました。永忠、最澄、空海の関係性はとても面白く感じます。

ところで、確かに文献上は弘仁六年が初出なのですが、嵯峨天皇はこの年に大和、山城、摂津、河内、近江、丹波などの近畿地域に茶樹を植えて茶を献上するように命じています。この記事から、少なくとも近江国付近では茶樹がすでに栽培されていた可能性があります。ただし、永忠が献じた茶が、永忠が請来したものか、それよりも以前に日本に入ってきていた茶樹なのかは考える必要があります。です。

もちろん、最澄も空海も、中国で茶を嗜んできていますし、また、最澄は空海に手紙とともに茶を送っていますから、日本でも茶を飲んでいたことでしょう。中国に留学した僧

侶たちは、中国の地で茶を飲み、「喫茶」という文化を日本に紹介したのです。

その後、茶は日本においても広く飲まれるようになりませんが、たとえば内裏の主殿寮という建物の東側には茶園があり、その茶は特別な行事に際して使われたようです。平安時代、京都のど真ん中に茶園があつたというのですから驚きですよ。そして、茶を用いる特別な行事の一つとして考えられるのが、「季御読経」という国家的仏教行事に際して行われた「引茶」という儀礼です。この儀礼に招いた僧侶に茶を振る舞っていたのです。そして、平安時代初期に始まったこの儀礼は、少なくとも栄西禅師の時代まで継続して行われていたのです。

また、茶は「北斗法」という密教儀礼にも用いられており、平安時代より日本で始められたと考えられるこの修法では、必ず銀錢と菓子と茶が用いられました。このうちの茶は「仙葉」であるという理由により供えられた

ものでした。文献にはわずかな事例しか記録されていないため、おそらく少数でしょうが、お茶が「菓」であるということを理解していた人たちもあつたことになりました。

このほかにも、顕密寺院において茶を供える儀礼をいくつか確認することができます。つまり、茶は仏教儀礼の中で用いられていたのです。平安時代には、事例は決して多くはなく、日常的に茶を飲むという状況からはほど遠いのですが、茶はこの時代を通して飲まれていたことになるのです。

さて、この時代に中国から輸入されたお茶は、「団茶」と考えられています。団茶とは固形茶のことで、その製法は、唐代の文人である陸羽（七三三〜八〇四）が著した『茶経』によれば、茶葉を蒸し、杵と臼で搗き、型枠に入れ、餅状に固め、炙って乾燥させる製茶法で、当時は「餅茶」と呼ばれていました。

この固形茶を粉末状にして、鍋で煮だして、茶碗にくみ出して飲むのが、『茶経』に記さ

れた飲み方です。この、唐式喫茶文化である餅茶・団茶（固形茶）を用いる方法が、日本の栄西禅師以前の茶の基本的な喫茶方法であつたと考えられています。

日本では平安時代の四〇〇年を経て鎌倉時代に移っていきませんが、この間、中国では唐代（六一八〜九〇七）から、五代十国（九〇七〜九六〇）の時代を経由して宋代（九六〇〜一二七九）へと移っていきます。また、宋代に新たな喫茶法が誕生し、それが日本に伝来することになるのです。そして、この新たな喫茶法の請来と伝播に大きな役割を果たすことになるのが禅宗なのです。

今回は栄西禅師の茶の請来についてお話しいたします。

館 隆志（たちりゅうし）

一九七六年静岡県沼津市生まれ。二〇〇九年駒澤大学大学院博士課程修了、博士（仏教学）。駒澤大学専任講師・花園大学国際禅学研究所客員研究員。著書に『園城寺・公胤の研究』（春秋社）、『蘭溪道隆禅師全集』第一巻（共編、思文閣出版）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ㄨ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。



「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第70巻 第5号(通巻第825号)
令和2年5月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
- 【発行人】栗原正雄
【編集人】畠中寿浩
【印刷人】喜田眞司
【発行所】京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替 / 01060-9-1400
電話 / 075-463-3121

表紙の絵 「笑顔」



笑顔ってたくさんの人を元気づける
薬なんだよ。いつも笑顔でいよう。

絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。